

Gaspare Traversi, Lezione di musica, Napoli, 1755–1760 [所蔵: USA, Kansas City : Nelson-Atkins Museum, inv. 61-70]

イタリア学会（第74回 全国大会）＆
熊本大学・音楽文化学研究室 共同企画 シンポジウムとコンサート

18世紀喜劇における徳

～抜け目なさの称揚～

日　時／2026年 11月15日(日) 10:00～12:00

場　所／シンポジウム　一般公開「Zoom」併用。 ※記載の二次元コードよりアクセスください。
ID:musichistory　Pass:不要
（於 熊本大学・教育学部本館4A教室）

入場無料

コンサート（於 熊本大学・音楽棟音楽ホール）
〈コンサート開始時間〉12:30～13:30　コンサートはイタリア学会・会員限定です

「喜劇の機知からカンタータの情念へ ～18世紀ナポリ楽派の描いた女性～」
出演／中川 詩歩（ソプラノ）　時本 さなえ（バロック・ヴァイオリン）　右ノ子 万里奈（チェンバロ）

イントロダクション

山田 高誌（熊本大学大学院人文社会科学研究部 欧米文化学領域 音楽文化学研究室／教育学部音楽科教育講座・准教授：音楽学、イタリア・オペラ史）
「喜劇オペラの”女中役”と、持ち歌《 私は綺麗じゃないわ、でもね *Io non sono bella, ma* 》の系譜」

パネル発表

菅野 類（愛知県立芸術大学音楽学部 准教授：18世紀イタリア文学）
「美徳をまとう抜け目なさ ― Antonio Piazzaの『演劇界』(*Il Teatro,* 1777-78) に見る女性の自己表象と自己正当化」

萩原 里香（静岡文化芸術大学文化政策学部 准教授：音楽学、イタリア・オペラ）
「《*L'Egisto, overo Chi soffre speri* エジスト：悩める者は希望を持て》(1639) にみる徳と日常 ― 18世紀喜劇の前史として」

辻 昌宏（明治大学経営学部 教授：イタリア文学、英文学）
「お女中はいかにして女主人になったか ―《奥様女中》の原作とオペラ化」

山田 高誌
「18世紀末のナポリの女中の実態 ― 公証人文書証言録に基づく1786年、作曲家パイジェッロ家の女中駆け落ち事件の顛末」

■ 共同主催／イタリア学会、熊本大学音楽文化学研究室
■ 共催／熊本大学教育学部、教育学部音楽教育科講座　■ 後援／熊本大学大学院社会文化科学教育部

[イタリア学会大会特別イベント費、および文部科学省科学研究費　基盤B（山田高誌代表 24K00020）「1740－1800年期、公証人文書に基づくナポリの民間劇場の興行と人々に関する総合研究」共催事業）]

18世紀喜劇における徳
～抜け目なさの称揚～

シンポジウム
10:00～12:00（於 熊本大学・教育学部本館4A教室）



山田 高誌（企画・構成・楽譜校訂）
熊本大学大学院人文社会科学研究部
欧米文化学領域 音楽文化学研究室／教育学部 音楽科教育講座・准教授

「18世紀、宮廷劇場における演目ジャンル＜オペラ・セリア＞では、貞節さや一途さ、そして自己犠牲がとりわけ“女性の徳”として称揚されている。一方、同時期の主に民間劇場で演じられた喜劇（演劇、およびオペラ）においては、主役となる女性の“抜け目ない性格”が、プロット、音楽とともに称揚され、世紀を通してこれがある種の伝統となっていた。しかしこれまでその連続性や実態について十分に着目されてこなかったように思われる。

本シンポジウムでは、そのような“抜け目ない女性”が、どのような姿で文学、戯曲、オペラを貫き一つの人物類型となっていたか、各パネリストによる具体例とともに明らかにし、最終的にはそれら“徳”はおそらく常に理念上の願望の範囲に留まっていたことを、ある下層社会の“制裁史料”から提示してみたい。

続くコンサートでは、18世紀ヨーロッパの「音楽の首都」であったイタリア・ナポリに学んだ作曲家たちによるオペラ、カンタータを取り上げ、そこに描かれる抜け目ない女中たち、そして“理想像としての女性”による心理的描写を、熊本を拠点に日本各地でのオペラ、古楽コンサートで活躍するソプラノ・中川詩歩さんによって演じて頂きます。」

イントロダクション
山田 高誌
「喜劇オペラの”女中役”と、持ち歌《私は綺麗じゃないわ、でもね*Io non sono bella, ma*》の系譜」

パネル発表
菅野 類（愛知県立芸術大学音楽学部 准教授：18世紀イタリア文学）
「美徳をまとう抜け目なさ — Antonio Piazzaの『演劇界』（*Il Teatro,* 1777-78）に見る女性の自己表象と自己正当化」

萩原 里香（静岡文化芸術大学文化政策学部 准教授：音楽学、イタリア・オペラ）
「《*L'Egisto, overo Chi soffre speri* エジスト：悩める者は希望を持て》（1639）にみる徳と日常 —18世紀喜劇の前史として」

辻 昌宏（明治大学経営学部 教授：イタリア文学、英文学）
「お女中はいかにして女主人になったか—《奥様女中》の原作とオペラ化」

山田 高誌
「18世紀末のナポリの女中の実態 — 公証人文書証言録に基づく1786年、作曲家パイジェッロ家の女中駆け落ち事件の顛末」

一般公開「Zoom」併用。
※記載の二次元コードよりアクセスください。
ID:musichistory
Pass:不要

コンサート
12:30～13:30（於 熊本大学・音楽棟音楽ホール）

コンサートはイタリア学会・会員限定です

「喜劇の機知からカンタータの情念へ ～18世紀ナポリ楽派の描いた女性～」
・出演／中川 詩歩（ソプラノ） **・時本 さなえ**（バロック・ヴァイオリン） **・右ノ子 万里奈**（チェンバロ）

ソプラノ 中川 詩歩
エリザベト音楽大学及び大学院修士課程修了。パリ・エコール・ノルマル音楽院高等コンサーティスト科ディプロムを審査員満場一致にて取得。フランス・トゥール地方音楽院や多数のマスタークラスにてバロック声楽を学ぶ。近年は古楽団体アントネッロのプロジェクトに数多く参加。オペラ《ラ・カリスト》ディアナ役、24’サントリーホール主催オペラ《リナルド》天覧公演アルミレーナ役。ルネサンスから現代まで幅広いレパートリーで活動を行っている。
熊本市在住。




時本 さなえ


右ノ子 万里奈

●曲目
- チマローザ作曲 喜劇オペラ《トラキアの恋人たち》（1793）序曲同時代編曲（1794）
- ラティッラ作曲 喜劇オペラ《偽の女中》（1738）よりアリア
- ピッチンニ作曲 喜劇オペラ《女漁師》（1766）よりアリア
- ペルゴレージ作曲 インテルメッゾ《リヴィエッタとトラコッロ》（1734）よりアリア
- A.スカルラッティ作曲 カンタータ
《愛しい夜よ、祝福された影たちよNotte cara ombre beate》H.479（ca.1694）ほか
（世界復活初演を含むほぼ日本初演の作品群）

■ 事前ご予約・お問い合わせ先
熊本大学音楽文化学研究室／yamada@educ.kumamoto-u.ac.jp（山田）

■ アクセス
産交バス／熊本大学前下車　徒歩5分　学内地図はQRコードよりご確認ください ➡
・教育学部本館／地図内13番　・音楽棟音楽ホール／地図内10番